

## 中山道赤坂宿まちづくりの会（大垣市）

中心市街地

歴史・まちなみ

### 取組の背景

大垣市赤坂地域は、中山道の 57 番目の宿場町として栄えた歴史的な地域である。

民家の建替え等によって、歴史的な雰囲気が徐々に薄らいでいく状況において、行政による意向調査や地元説明会をきっかけに、失われつつある歴史的な雰囲気を残すべく、地元住民が主体となり「中山道赤坂宿まちづくりの会」が設立された。

### 取組団体の概要

#### 中山道赤坂宿まちづくりの会

中山道の宿場町として歴史的な町並みを残す赤坂地区において、「まちなみ調査」の実施、「お嫁入り普請探訪館」の運営、勉強会の開催等を通じ、まちづくり活動をしている。

会員数 85 人（男性 52 人、女性 29 人、4 団体）  
会費 1,000 円／年、設立 2002 年

### 取組の内容

主な活動は、「お嫁入り普請探訪館」の開館、講習会、勉強会の開催、先進地への視察などである。



お嫁入り普請探訪館

#### ・「お嫁入り普請探訪館」の開館

宿場町として栄えた時代に建てられ、現在は空き家となっていた家屋を活用し、訪れた方に赤坂の歴史などを入場料無料で紹介している施設。土日は団体客を除いても 10 人程度の入場者があり、ボランティアが来場者にガイドしている。

#### ・まちづくりに関する講習会、勉強会の開催、先進地視察

赤坂の貴重な歴史的・文化的資産を後世へ伝えることができるよう、郷土史家やまちづくりの有識者による勉強会を年 3 回程度開催し、地元の歴史・風土を学んでいる。また、木曾路奈良井宿や伊賀上野等の先進地も視察し、まちづくりを勉強した。

#### ・冊子「中山道赤坂宿まちなみ調査」の作成

平成 15～16 年度には、「まちなみ調査委員会」を設立し、宿場町の雰囲気を色濃く残したまちなみを目指す第一段階として、街道沿いの歴史や趣のある家々を調査し、冊子「中山道赤坂宿まちなみ調査」を作成した。現在、まちなみ調査を基に、赤坂宿の名所旧跡、宿場町の景観などを紹介した「中山道赤坂宿景観マップ」の作成に取り組んでいる。

### 成果

- ・「お嫁入り普請探訪館」の開館
- ・まちづくりに関する講習会、勉強会の開催、先進地視察の実施
- ・冊子「中山道赤坂宿まちなみ調査」の作成
- ・都市景観形成市民団体の認定

大垣市都市景観条例に基づき、都市景観の形成に寄与することを目的として設立された団体として、市から平成 14 年 8 月に都市景観形成市民団体の第 1 号として認定を受けた。その結果、市の技術的・財政的な援助を受けることとなり、会議や会主催の行事等についても、行政の積極的な参加を受け、助成金も平成 14 年度実績で 24 万円、平成 15 年度は 30 万円、平成 16 年度は 30 万円（各年度 1 回合計 3 回まで）を受けた。

### 成果の要因

#### ・住民理解の確保

赤坂の歴史的、文化資産について、住民の理解を得られるよう、先進地視察や勉強会を重ねた結果、町並みの保存や活用に対する住民の理解を得ることができた。

#### ・自治会を中心とした合意形成

自治会を通じた地縁関係によるつながりを重視し、地域住民の合意形成に最大限留意しつつ、慎重に意見をまとめた結果、一定の合意を

得ることができた。

#### ・行政の提案

大垣市からの提案をよい契機とし、補助金の確保による先進地視察や勉強会により住民参加を確保できた。

### 今後の課題

#### ・古い町並み（家屋）の保存

新しい家屋に次々建て替えられていく中で、高すぎる天井など現代生活には不利な点が多い古い家屋の保存への理解をどのように確保していくか、また、自らを規制することとなる景観保存条例の制定等については、既に新しい家屋となっている世帯や、今後、建て替えを予定している世帯の理解を確保することは難しい課題である。今後は、本地域がいかに歴史的資源に恵まれている地域であるか、また、「中山道赤坂宿」がいかに付加価値の高い「ブランド」であるかということについて、地域全体のコンセンサスをどのように形成していくかが課題である。

#### ・「点在」する資源の活用

金生山の化石に始まり、古墳、壬申の乱、皇女和宮など、様々な時代の歴史的資源や、場所的に離れている観光資源など、時系列的、距離的に「点」として存在している「資源」を今後、「線」あるいは「面」的に捉え、どう活性化に結びつけていくかが課題である。名所旧跡が多い反面、「核」となる部分が弱いうえ、現状では数ある「資源」を活用する以前に、しっかりと「保存」も難しい状況である。一方で「中山道赤坂宿祭（皇女和宮行列）」は、多くの観光客を呼べるまでに成長してきているが、十分な駐車場の確保も難しく、現状では多くの人を「もてなす」という面ではハード的に整備を必要としていかななくてはいけない部分も多い。そのような状況で、「中仙道赤坂宿」を積極的にPRし、活性化する方向へ活用していくのか、当面は歴史を尊重し、貴重な「資源」を守りつつ、「もてなし」のハード、ソフト両面の整備を図っていくのかについて、地域住民のコンセンサスを形成していく必要がある。

#### ・人材（後継者）の確保

現在の会員は60代が中心であり、50代の参加がほとんどなく、40代が数名という状況であ

る。プライベートや家庭を重視する傾向が強く、なおかつ仕事も忙しくなる30～50代の住民に、プライベートが犠牲になるボランティア活動に対して、十分な理解を確保し、どのように参加してもらうかが課題である。

#### ・活動経費の捻出

会員からの会費だけでは年間数万円しかなく、現状では、財政面から会の活動が大きく制限されている。「お嫁入り普請探訪館」についても維持管理の経費がかかるが入場料は無料であり、今後は、何らかの収益事業や企業からの支援金など、市からの補助金に頼らない収入源の確保の検討が必要となっている。

### 行政への期待

#### ・長期的なまちづくりビジョンの策定

行政としても長期的なビジョンをもって「まちづくり」に取り組んでほしい。「赤坂宿」を今後どうしていくのかについて、住民、行政が同じ席について議論を交わしていきたい。「赤坂宿」については、行政の積極的な呼びかけを契機として、住民と行政の協働という形でここまでできている部分があるが、今後も積極的に「協働」スタイルの継続に努めてもらいたい。

#### ・計画的な事業展開

長期的なまちづくりビジョンに基づく「まちづくり事業計画」を住民と協働で策定し、計画的な事業展開を期待する。厳しい財政状況のなかで単年度の事業費は期待できないことは承知している。しかし、毎年度小額の予算をつけて事業を実施しても効果が目に見えてこない。数年間は予算0でもよいので、5年後、6年後あるいは10年後に数年分の予算を使い、電線の地中化などシンボリックな事業を展開してもらうことを確保されれば、「町並み景観の保全」などに係る地域住民の意識向上につながり、コンセンサスも形成しやすくなる。

### この人にお話をうかがいました！

中山道赤坂宿まちづくりの会

代表 矢橋龍宜さん 清水一守さん

調査日：平成18年11月10日（金）

調査者：西濃振興局 森、渡辺